

8月15日は終戦(敗戦)の日

1945年8月15日正午、ラジオで放送された玉音放送により、ポツダム宣言受諾と日本の降伏が公表されました。これにより、史上唯一核兵器が使用された、人類史上最大の戦争である第二次世界大戦が終結したとして、日本では毎年8月15日を「終戦(敗戦)の日」とし、戦没者の追悼を行なっています。犠牲者数は世界で5000万人～8000万人とも言われ、日本でも約310万人が亡くなりました。

長引く戦争 犠牲者は増え続ける一方

今年も終戦から77年。依然として核兵器廃絶には至っておらず、ロシアによるウクライナ侵攻も続いている中で終戦の日を迎えます。軍事侵攻から半年が経とうとしていますが、停戦協議は進まず、各国からは武器が供与され戦況は泥沼化し、犠牲者は増え続けています。もし第二次世界大戦が早期停戦協議に至っていれば、市民に大きな被害を出すことになる東京大空襲や沖繩戦も、広島・長崎への原爆投下も行なわれることなく、多くの市民の命が守れたはずですが、軍事侵攻による犠牲者をこれ以上増やさないためにも、両国は一刻も早く攻撃を止め、世界各国が協力して対話による平和協議を行なうべきです。

しかし、日本においては先の大戦の経験を経てもなお、ウクライナ情勢に乗じて、自衛隊を憲法に明記する「憲法改正」、非常時に内閣の権限を強化する「緊急事態条項」、唯一の戦争被爆国であるにも関わらず、非核三原則に違反する「核共有」について議論されています。戦争(権力者の争い)で被害を受けるのは私たち労働者です。国を守るためという言葉に騙されることなく、私たちの生活を守るため、私たち自らが声を上げていきましょう!!

私たちが安心して暮らせる平和な社会を実現するため「戦争のできる国づくり」にNOを突きつけよう!